

各学府の教育研究上の目的について

大学院設置基準(昭和49年6月20日文部省令第28号)第1条の2の規定に基づき、九州大学大学院の学府又は専攻等ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を下記のとおり定めていますので、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第172条の2の規定に基づき、公表いたします。

学府名	専攻、コース名	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
人文科学府		学府は、人間文化や人間性を深く理解することを目指すとともに、そうした理解に基づいて現代社会の諸領域において創造的な貢献を果たすことができる有為な人材を養成する。
	人文基礎専攻	人間文化の多様な展開に関する専門的な研究を通じて、現代社会の提起する諸問題に対して根源的な考察を提示できる人材を養成する。
	歴史空間論専攻	歴史的条件や地理的条件によってさまざまに異なる民族や文化に関する専門的な研究を通じて、国際的な交流や相互理解に必要な知識を提示できる人材を養成する。
	言語・文学専攻	世界各国の古典に遡る文学や文献の成立及び言語自体の構造に関する専門的な研究を通じて、人間精神の理解についての新たな可能性を提示できる人材を養成する。
地球社会統合科学府		人類と他の生物にとっての生存圏である「地球社会」に関連するグローバルな人類の諸課題を、文理の枠を超えた統合的な学際性に立脚して究明するとともに、新たな解を提案して世界と地域をリードする、包括型の高度専門職業人並びに卓越した研究者を養成する。
比較社会文化学府		本学府は、異なる社会文化の共生をめざし、学際的・総合的なアプローチによって、国際化、情報化、地球環境問題などの現代社会が抱えた諸問題の解明に中核的な役割を担う研究者及び高度専門職業人を組織的に養成する。
	日本社会文化専攻	現代社会が直面している様々な問題を解決するために、「世界、或いはアジアの中の日本」という観点から、社会、文化、環境及びその変容について学際的に問題解決に取りくむ研究者及び高度専門職業人を組織的に養成する。
	国際社会文化専攻	グローバル化と情報化、地球環境変動に伴い急速に変容しつつある国際社会が、現代的課題を乗り越えていくための方策を探求する研究者及び高度専門職業人を組織的に養成する。
人間環境学府		地球規模で複雑に多様化する傾向にある人間環境を取りまく諸問題を多面的視点から科学的に解明し、人間にとって最適な環境のあり方とその創造の方向を探り、新時代の共生社会をリードする役割を果たす人材を組織的に養成する。
	都市共生デザイン専攻	これまでの専門分野の垣根を越えて、工学・建築学・都市計画学・心理学の学際的視点から安全・安心で快適な都市づくりの理念や方法を探求すると同時に、高度な専門技術と知識を習得し、今日のような都市問題の解決に寄与できる人材を養成する。
	人間共生システム専攻	臨床心理学、社会学、社会福祉学、比較宗教学、人類学などの視点から、社会の諸問題をとらえ、問題分析能力をもつ研究者とともに、問題解決能力、対応能力をもつ高度専門職業人とその指導者を育成する。
	行動システム専攻	人間の精神的・身体的活動という人間行動を研究対象とし、心理学及び健康・スポーツ科学で培われたアプローチを通して人間行動のしくみを解明する研究者並びに高度専門職業人を養成する。
	教育システム専攻	教育システムを学校教育、家庭教育、社会教育・生涯学習、教育政策、国際的教育環境などの諸側面に即して解明するとともに、諸科学の方法を駆使し、現代の教育システム上に生じている諸問題の解決に寄与できる研究者及び実務家を養成する。
	空間システム専攻	住宅から都市に至るさまざまな空間を、より快適で美しく丈夫で使い

		<p>やすい空間システムとして設計・施工・管理するための理論や技術について教育研究し、広く交流・共生・持続・循環型社会の構築に貢献できる研究者及び高度専門職業人を養成する。</p>
	実践臨床心理学専攻	<p>様々な臨床心理現場との連携を深めつつ、種々の臨床心理現場に即応できるハイクオリティの臨床心理士を養成する。</p>
法学府（法政理論専攻）		<p>本学府は、特定の科目分野に限定しない幅広い研究関心を抱く学生がその研究関心に即して幅広く授業科目を履修できるよう「法政理論専攻」の一専攻制とし、高い倫理性・社会性に裏打ちされた、国際レベルで活躍しうる創造性豊かな研究者とルール形成や政策形成をリードすることのできる高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人を組織的に養成する。</p>
	修士課程研究者コース	<p>①各自の専門分野について、研究者として自律的に研究活動を行い、引き続き博士後期課程で研究を深化させる展望をもった人材、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を身につけた人材を養成する。</p> <p>②研究者として自律的に研究活動を行い、引き続き博士後期課程で研究を深化させる能力、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得させる。</p> <p>③修了後の進路としては、主として博士後期課程への進学、大学・研究所等の教育・研究機関、法律専門職等の分野に進むことを予定している。</p>
	修士課程専修コース	<p>①ルール形成や政策形成をリードすることのできる高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人を養成する。</p> <p>②高度な専門的・実務的知識の修得の上に立って、これらの知識を活用して社会に貢献できる能力を養成する。特に職業人特別選抜入学者においては、職業活動のなかで養われた専門的な知見を広い視野からの学問的見地に立って、さらに掘り下げて点検し、それを再び職業活動のなかで活かすことのできる能力を養成する。</p> <p>③修了後の進路としては、職業人入学者の職場復帰のケースをはじめ、主として公務員、法律専門職、教員、マスメディア等、高度な専門的知識・能力が求められる職業分野に進むことを予定している。</p>
	修士課程国際コース	<p>①研究と実務の最先端を教育に反映させることを通じ、多角的な問題発見能力を身につけさせ、博士後期課程における高度な教育に対応できるとともに、最先端の実務においても活躍可能な人材を養成する。</p> <p>②英語による法学・政治学教育を通じて、博士後期課程における高度な教育に対応できる多角的な問題発見能力を修得させるとともに、国際レベルの最先端の実務の場で活躍できる法学・政治学の能力を修得させる。</p> <p>③修了後の進路としては、主として、博士後期課程への進学、世界各国の大学・研究所等の教育・研究機関、政治・行政分野のリーダー、法律専門職等に進むことを予定している。</p>
	博士後期課程研究者コース	<p>①高い倫理性・社会性に裏打ちされた、国際レベルで活躍しうる創造性豊かな研究者を養成する。</p> <p>②研究者として自律して研究を行い、博士学位を取得し、学界に貢献できる研究成果をあげることのできる能力を修得させる。</p>

		③修了後の進路としては、主として、大学・研究所等の教育・研究機関等に進むことを予定している。
	博士後期課程高度専門職業人コース	①高い倫理性・社会性に裏打ちされ、法学・政治学分野に関する極めて高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人を養成する。 ②法学・政治学分野に関する極めて高度な専門的知識およびこれらの知識を活用して社会に貢献できる能力を修得させる。 ③修了後の進路としては、法律専門職等の法学・政治学に関連深い高度専門職業分野に進むことを予定している。
	博士後期課程国際コース	①法学の様々な分野においてグローバルな情報発信力を備え、国際社会における諸課題への対応力を備えた国際競争力の高い若手研究者を養成する。 ②法学分野の最先端の理論的問題への適応力、国際的水準に達する研究成果を生み出し、その研究成果を自主的に対外的に発信することのできる能力等を修得させる。 ③修了後の進路としては、主として、世界各国の大学・研究所等の教育・研究機関、法律専門職等に進むことを予定している。
法科大学院(法務学府)		本法科大学院は、人間に対する温かい眼差しを持ちつつ、いかなる場面でも、人や社会の要請に的確に応えることができ、自律した総合的判断を行うことができる能力を身に付けた法律実務家となる人材を組織的に養成する。
経済学府		本学府は、幅広い教養と専門的能力とともに、社会性と国際性とを身に付けることによって、様々な分野で指導的な立場で活躍できる人材を組織的に養成する。 修士課程では、経済学の専門的知識に基づいて現代社会の直面するより複雑な問題に対処し、それを解決する能力を身に付けた高度専門職業人を養成するとともに、博士後期課程でのより高度な内容の修学に必要な研究能力の育成に努める。 博士後期課程では、幅広い視野と知識、及び高度な研究能力を修得し、独創的・個性的研究者を養成する。
	経済工学専攻	複雑化・不確実性の度合いを強めつつ進化する現代社会の創造的発展を担い、①高度な理論的・計量的分析の手法による革新的・独創的な研究能力、②経済社会の政策課題の研究と政策課題の提示を行う能力、③経済・経営問題に関する高度かつ最新の理論・情報解析の手法を開発・活用する能力を身につけた研究者及び高度専門職業人を養成する。
	経済システム専攻	先端的科学技術の急速な発展や経済のグローバル化・市場経済化の進展などによって大きな変容を遂げつつある現代の経済社会に、「現代経済分析」、「世界経済分析」、「産業分析」、「企業分析」という4つの側面から多角的、多層的、総合的にアプローチし、高い専門性、広い問題関心、鋭敏な現実感覚、複合的な分析能力を磨くことによって、経済社会が抱える問題に対処し、国際的な舞台で活躍できる研究者・高度専門職業人を組織的に養成する。
	産業マネジメント専攻	世界の成長センターであるアジアにおいて、高度専門職業人として新しい産業社会のフロンティアを切り開く先端的な経営能力をもつ人材を育成することを目的とする。特にアジアビジネスと技術経営(MOT)の分野においては、専門的な知識とスキルと考え方を修得し、ビジネスで活用する能力を涵養する。
理学府		理学は、自然界に存在する真理を明らかにして、体系的に説明する普遍的法則を構築する学問である。本学府は、教育研究を通じて自然の法則および理学の理念・方法を教授し、国際的な場で活躍できる広い視野を持った先端的な研究者、高度な能力と学識を備え社会の広い分野で活躍する高度な専門家を養成する。
	物理学専攻	微視的極限から巨視的極限に至る自然界の様々な階層における特

		<p>微的な法則や共通の原理を理解し究明することを目指して教育研究を行い、時空や物質の究極の姿や普遍的法則を追究する独創的能力を備えた研究者、確かな教育能力を備えた教育者、学術的素養を備えて様々な課題に柔軟に対処できる高度な専門家を養成する。</p>
	化学専攻	<p>物質の構造、構造形成原理、物質変換や分子認識、機能発現などについて、分子論・量子論・エネルギー論に基礎をおいた教育研究を行い、独創的研究能力を有する化学の研究者、確かな教育能力を備えた教育者、学術的素養を備え産業の分野で活躍できる高度な専門家を養成する。</p>
	地球惑星科学専攻	<p>きわめて複雑なシステムである地球惑星の起源・進化から、現状・未来にわたる広い時間スケールの現象を対象として教育研究を行い、独創的能力を有する研究者、確かな教育能力を備えた教育者、社会全般の中で生じる様々な問題解決を図る能力をもった高度な専門家を養成する。</p>
数理学府		<p>1. 人材の養成に関する目的 広範な数学の研究成果の基礎の上に多様で先端的な内容の教育を実践し、数理学を背景におく諸分野で指導的役割を果たす創造的人材を養成する。</p> <p>2. 教育研究上の目的 数理学の研究と教育を行い、その研究成果と人材養成をもって社会に貢献することを目的とする。</p>
システム生命科学府		<p>システム生命科学は、分子生物学的研究や詳細なゲノム情報の獲得により飛躍的に進展した生命科学の分野に、情報科学および工学分野の理論と技術を融合させる新規な総合生命科学と位置付けられる学問である。本学府では、生物学、情報科学、工学、医学、農学の諸分野を横断的に融合した学際的な教育研究を行い、社会の多様な要求に堪える独創性と柔軟性に富み、情報科学と生命科学、または工学と生命科学という2つの領域に精通したダブルメジャーの素養を持つ先端的研究者・教育者、ならびに、高度な能力と学識を備え社会の広い分野で活躍する高度な専門職業人を養成する。</p>
医学系学府		<p>医学に関する社会の多様なニーズに応える人材を組織的に養成する。</p>
	医学専攻	<p>医学専攻は、現代医学が生命科学の基盤の上に基礎医学、社会医学、臨床医学、さらにこれらと薬学、理学、工学、農学、保健科学等の分野が融合した領域を含んだ学際的な学問となっており、この最先端の医学を学ぶ機会を、幅広い分野からの知の希求者に提供し、さらに現在から未来の医学を創造し推進出来る人材を育成していき、社会へ還元することを目的とする。</p>
	医科学専攻	<p>医科学専攻は、医学と多くの他分野の知識と経験を融合し、かつ統合することにより、「人の健康と福祉の増進」という医学の使命をさらに高いレベルで達成するための多様な人材を組織的に養成する。</p>
	医療経営・管理学専攻	<p>医療経営・管理学専攻は専門分化した医療技術を、人々が「安心・納得・一体感」を持って生活し、人生を過ごせるよう統合・調整・組織化できる高度な専門職業人を組織的に養成する。</p>
	保健学専攻	<p>本専攻では、保健学における創造性豊かな優れた研究・開発能力を有する教育者・研究者の養成及び保学分野における研究マインドをもった実践的指導者や組織リーダーを養成する。</p>
歯学府		<p>博士(歯学) 多様な歯科疾患の分子基盤の確立、および口腔から全身疾患を克服するための口腔保健医療体系構築に貢献する指導的人材の養成を目的とする。すなわち、歯学およびこれに関連する医学または自然科学の分野において、高度な学術情報を発信する指導的研究者、歯学の真髄を教授する教育者、国際連携の推進者、歯科医療または口腔保健行政の指導者等になりえる人材を育成する。</p> <p>博士(臨床歯学)</p>

	<p>口腔から全身疾患を克服するための口腔保健医療体系構築に貢献する指導的人材の養成を目的とする。すなわち、臨床歯学およびこれに関連する医学の分野において、豊かな科学性と論理性を備えた指導的臨床医、国際連携の推進者、歯科医療または口腔保健行政の指導者等になりえる人材を育成する。</p>	
薬学府	<p>薬学の目的は、物質の科学と生体の科学との融合深化を図るとともに、健康の維持・増進のため疾病の予防・治癒に向けた医薬の創製とその適正使用および環境に関わる科学を体系的に探究し、その成果を具体的な科学技術や技能として、21世紀における高度知識社会・高齢化社会へ還元することによって人類の医療・福祉に貢献することである。本学府ではこの薬学研究の目的を達成するために、それらに関わる人材の育成に努める。</p>	
	創薬科学専攻	<p>国際的に活躍できる基礎研究者及び創薬研究者の育成を目的に、薬学の基礎的及び先端的知识、課題探究能力及び解決能力を持ち、基礎科学者、創薬研究者及び薬学教育者を目指す人材を養成する。</p>
	臨床薬学専攻	<p>人間に対する全人的理解の基盤に立ち、医療現場で活躍する高度薬剤師及び臨床薬学研究者の育成を目的に、医療現場での実践力、問題提起・抽出能力及び解決能力を持ち、医療人として質の高い薬剤師、医療薬学の将来を担う指導者、教育者、研究者を目指す人材を育成する。</p>
工学府	<p>工学は、物理学や化学などの基礎科学分野における原理と法則をもとに人類文明の持続的発展を恒久的に探究する学問である。本学府では、教育研究を通してエネルギー・資源・物質・環境・システムに関する深い専門知識と探求創造能力を教授育成するとともに、高い倫理感と国際性をもって工学に携わる研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。</p>	
	物質創造工学専攻	<p>物質創造工学は、社会生活の持続的発展を可能とするために、応用化学の合成手法を用いて、機能性に優れた物質・材料の創製をめざす学問である。本専攻では、物質の原子・分子レベルでの理解を基礎に新しい物質・材料の創造に関する論理・知識・方法を教育研究し、豊かな物質社会と人類の福祉に貢献できる研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。</p>
	物質プロセス工学専攻	<p>物質プロセス工学は、未来社会を支える科学技術の基盤として素材技術の革新をめざす学問である。本専攻では、物理・化学・反応工学的原理を基礎に、新素材の創成とその特性の制御と評価、高効率で環境調和型プロセスの開発・設計などを教育研究し、地球環境との調和と人類の福祉に貢献できる研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。</p>
	材料物性工学専攻	<p>材料物性工学は、人類社会の持続的発展実現に不可欠な、優れた材料の創出と活用をめざす学問である。本専攻では、生活の基盤をなす材料の物性を原子・分子レベルで理解・制御し、物質に関する科学技術の新領域を創出し、地球環境との調和ならびに豊かな物質社会と人類の福祉に貢献できる研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。</p>
	化学システム工学専攻	<p>化学システム工学は、物質や材料で構成される複雑なシステムを総合的に解析し、その高度化と創造をめざす学問である。本専攻では、原子・分子レベルから、生体、情報、生産、地球環境レベルまでの複雑なシステムを解析、創造する能力を教育研究し、地球環境との調和、豊かな物質社会に貢献できる研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。</p>
	建設システム工学専攻	<p>建設システム工学は、構造物の設計・建設に関する高度な技術体系への展開と深刻化する環境・防災問題に対する新技術をベースとした社会基盤システムの再構築を行う学問である。本専攻では、安全・安心の社会の実現をめざして、高度専門知識を集積した技術力と柔軟な研究能力を備え、社会の指導的地位で活躍できる素養を有する研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。</p>
	都市環境システム工学専攻	<p>都市環境システム工学は、都市問題から環境問題に至るまでの現象解明や影響予測・軽減・防止、新システムの創造に関する広範かつ高度な技術体系への展開を行う学問である。本専攻では、豊かな自然を</p>

		<p>保全し、望ましい社会環境を実現するための、高度専門知識を集積した技術力と柔軟かつ創造性豊かな研究能力を有する研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。</p>
	海洋システム工学専攻	<p>海洋は地球環境の観点から最も重要な空間であり、宇宙と並んで人類に残されたフロンティアである。本専攻では、海洋空間の有効利用と保全、防災を対象として、海洋工学、沿岸工学、船舶工学およびこれらを統合したシステム技術を探求し、人類の生活基盤を多面的に支える技術を提供できる能力を有する研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。</p>
	地球資源システム工学専攻	<p>地球資源システム工学は、持続可能な社会と産業活動の基盤となるエネルギー資源と鉱物資源の探査・開発生産・利用・循環、さらに環境修復・地殻防災・地球環境保全技術などを総合的に扱う学問である。本専攻では、これらの創造的技術に関する教育研究を通じて、地球規模での発想力と行動力を備えた研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。</p>
	エネルギー量子工学専攻	<p>エネルギー量子工学は、量子現象の解明とその応用を基に地球規模のエネルギー・環境問題の解決をめざす学問である。本専攻では、原子核・量子レベルの物理現象から複合システムの巨視的特性までを総合的にとらえる研究教育を通じて、広い視野と長期的展望を持って新しい科学技術領域を開拓する研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。</p>
	機械工学専攻	<p>機械工学は、基盤的な学問領域である材料力学、機械力学、流体力学、熱力学の深化と材料・設計、機械加工、制御システム、燃焼、バイオ・生体などの新しい分野での物理の究明を行う学問である。本専攻では、教育研究を通して幅広い専門知識と総合能力を身につけ、それとともに、創造性を発揮できる先導的な技術者・研究者・教育者を養成する。</p>
	水素エネルギーシステム専攻	<p>水素エネルギーシステムは、水素の製造から貯蔵、供給、利用にわたる技術、及びそれらに関する基礎学理を包含する、クリーンエネルギー社会の実現をめざす学際的分野である。本専攻では、機械工学の基盤の上に材料・プロセス、全工学などを理解し、新たなエネルギーに関わる研究開発を通じて、地球環境との調和に貢献できる技術者・研究者を養成する。</p>
	航空宇宙工学専攻	<p>航空宇宙工学は、人類の活動領域拡大に必要な先進工学分野を開拓する学問である。本専攻では、力学を基礎とした工学理論の習熟と、航空宇宙機開発特有のシステム工学の探究を通して、航空宇宙機の運用環境拡大によって生ずる課題を発見する能力と独創的考案によって課題を解決する能力を身に付けた研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。</p>
芸術工学府		<p>本学府は、技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基盤である科学と人間精神の最も自由な発現である芸術とを統合し、技術の進路を計画し、その機能の設計について研究するとともに、人文、社会、自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする高次の設計家を組織的に養成する。</p>
	芸術工学専攻	<p>芸術工学の目標である「技術の人間化」を達成するため、先端的、独創的研究を行い、かつ指導的役割を果たし得る総合的な設計能力あるいは表現能力を備えた人材を組織的に養成する。</p>
	デザインストラテジー専攻	<p>日本、アジア、世界でのデザイン活性化を基軸として、社会と産業の持続的な発展に貢献することを教育理念に、デザインストラテジー能力を有する高度専門職業人及び研究者などの人材を組織的に養成する。</p>
システム情報科学府		<p>情報科学は、情報処理や情報通信の技術の高度化と普及によって、極めて重要な学問分野となりつつある。一方、電気電子工学は、その長い歴史において極めて高機能化・複雑化・大規模化した電気電子システムを生み出し、今後も情報科学と密接な連携のもとに発展していくことが期待されている。これらを鑑み、システム情報科学府は、情報学、情報知能工学、電気電子工学の3専攻を設置し、幅広い知的関心、国際性、倫理性を持ち、かつそれぞれの分野で高度な専門的知識と研究開発能</p>

		力を備えた次世代の研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。
	情報学専攻	情報学専攻では、自然や社会・人間にかかわる様々な「情報」現象の性質を、形式と意味内容の両面から究明する新しい基礎科学である情報学を体系的に教育研究することによって、将来にわたって情報通信技術の基盤を支え情報学における新たなビジョンを示すことのできる研究者・技術者・教育者を組織的に養成する。
	情報知能工学専攻	情報知能工学では、計算機技術を基礎として、高度ハードウェア、高度ソフトウェア、情報通信技術、実世界情報処理技術に関する専門知識を備え、高度情報化社会のための先端技術を開発する研究者・技術者・教育者、ならびに高い倫理観を持った世界に通用するリーダー候補を組織的に養成する。
	電気電子工学専攻	電気電子工学専攻では、電気・電子・通信工学の高度な基礎知識を体系的に理解し、情報通信分野および電気システム分野において、高度な専門的知識からの発想力で複雑化する問題の解決に取り組み、将来に向けて新たな社会価値を創り出すことのできる技術者・研究者・教育者を組織的に養成する。
総合理工学府		本学府は、物質、エネルギー、環境及びその融合分野における環境共生型科学技術に関する高度の専門知識と課題探求・解決能力を持ち、持続発展社会の構築のためにグローバルに活躍できる技術者や研究者となる人材を養成する。
	量子プロセス理工学専攻	量子効果を利用した科学技術の急速な進展が、自然と調和のとれた社会発展へとつながるよう、先端的な物質やデバイス、及びそのためのプロセスなどの基礎となる科学技術の追求を通して、次世代の優れた人材を養成する。
	物質理工学専攻	物質に関連する理学と工学を総合的にとらえ、物理・材料・化学の学問分野を統合し、物質科学の新展開を追求する一方、環境共生型物質科学の推進によって、次世代を担う高い創造力と広い視野をもつ人材を養成する。
	先端エネルギー理工学専攻	新型エネルギー開発や基礎学理に関する学際的な教育と研究を行い、21世紀のエネルギー問題解決に向け指導的役割を担う、広い視野と創造力を持った人材を養成する。
	環境エネルギー工学専攻	環境負荷の低減や資源エネルギーの有効利用、省エネルギー技術やこれらに基づく環境共生型社会システムの構築に関する研究を通して、次世代を担う人材を養成する。
	大気海洋環境システム学専攻	地球環境科学と自然流体力学を基礎にして、我々の生命環境を維持する大気海洋圏が直面している未曾有の危機に対する方策の確立を目指す広い視野を持った人材を養成する。
生物資源環境科学府		<p>【ディプロマポリシー】</p> <p>21世紀の人类的課題である食料問題と環境問題を克服し、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全、人類の健康と福祉に貢献するため、本学府は、生命科学、環境科学、社会科学等の広範な学問分野において高い専門性と国際性を有し、社会や学問の変化に柔軟に対応でき、豊かな人間性、倫理性、独創性を備えた人材の養成を組織的に行う。</p> <p>【カリキュラムポリシー】</p> <p>生命科学、環境科学、社会科学などの広範な生物資源環境科学諸分野において、深い洞察力和専門的知識の習得に加えて、課題探求能力を備えた高度な専門職業人および研究者の育成のための教育を行う。併せて、学際性ならびに国際性を備えた人材の育成のための教育も行う。本学府の教育は、講義科目の授業および学位論文の作成指導等によって行う。</p> <p>【アドミッションポリシー】</p> <p>21世紀の人类的課題である食料問題と環境問題を克服し、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全、人類の健康と福祉に貢献するため、生命科学、環境科学、社会科学などの学問分野に強い関心と</p>

	<p>専門基礎知識を有し、国内外を問わず、将来生物資源環境科学諸分野で活躍を目指す意欲的な学生を求めている。</p>
<p>資源生物科学専攻</p>	<p>【ディプロマポリシー】 陸圏、水圏を包括した食料資源生物の持続的安定供給のための生産技術や資源生物生存環境の保全に関する幅広い専攻教育を行い、地球規模での食料問題と環境問題の解決に貢献できる創造性に優れた研究者と視野の広い高度職業人を組織的に養成する。</p> <p>【カリキュラムポリシー】 食料資源生物の持続的安定供給、革新的生産技術、保護管理および資源生物生存環境の保全に関する深い理解と高い洞察力、優れた研究・開発能力を有する人材を組織的に育成するため、基礎、先端および実践の視点から授業科目を体系的に編成し、専攻内の各研究分野の分担・連携と複数指導教員制の下、重層的な教育を行う。</p> <p>【アドミッションポリシー】 人類に課せられた最重要課題の一つである食料問題の克服を基本理念として、陸圏、水圏を包括した食料資源生物の持続的安定供給、革新的生産技術、保護管理および資源生物生存環境の保全を目指し、分子・細胞から生態系にまで至る幅広い専門知識と先端的技術、深い洞察力および豊かな創造性を併せ持つ人材を体系的、組織的に育成することを教育目標とする。生命の営みや生物生産の仕組みに関心をもち、将来、食料問題の解決や、生物生産を支える豊かな環境の創造に挑戦しようとする意欲をもった人物を期待する。</p>
<p>環境農学専攻</p>	<p>【ディプロマポリシー】 生物生産・資源利用と環境との調和を基本理念とし、地球スケールから地域スケールさらには圃場スケールまでのマルチスケールの視座と生物生産・循環型資源利用の視座から、生物生存環境、生物生産環境の保全・修復・創生と適正化を図り、環境と資源利用が調和した高度で持続可能な社会の構築に寄与する環境科学および生産科学に関する先端的・学際的知識、包括的思考力、高度な課題探求・解決能力ならびに国際性を有する研究者や技術者を組織的に養成する。</p> <p>【カリキュラムポリシー】 生物生産環境、生物生存環境の保全・修復・創生と資源の高度な生産・加工・利用を図り、環境と資源利用が調和した持続可能な社会の構築に寄与する人材を体系的に育成するため、専攻内の各研究分野の分担・連携と複数指導教員制の下、講義科目の授業および学位論文の作成等を通して、環境科学および生産科学に関する先端的・学際的知識、包括的思考力、高度な課題探求・解決能力ならびに国際性を組織的に教育する。</p> <p>【アドミッションポリシー】 生物生産環境、生物生存環境の保全・修復・創生と資源の高度な生産・加工・利用を図り、環境と資源利用が調和した持続可能な社会の構築に寄与する人材を体系的、組織的に育成することを教育目標とする。環境科学および生産科学に関する先端的・学際的知識、包括的思考力、高度な課題探求・解決能力の修得と学際的かつ国際的に活躍するために必須となる英語、化学、生物学、物理学、数学、経済学などの基礎学力、および研究遂行のための熱意・能力・資質をもった人物を期待する。</p>
<p>農業資源経済学専攻</p>	<p>【ディプロマポリシー】 社会科学総合の観点から、国際フードシステムの社会経済問題に関する高度な研究能力と国際性を備えた指導力を修得させ、安全な食料の安定供給とそれを担う国内外の食料産業・地域経済社会の持続的かつ環境調和的発展に携わる人材を組織的に養成する。</p> <p>【カリキュラムポリシー】 社会科学総合の観点から、国際フードシステムの社会経済問題に関する高度な研究能力と国際性を備えた指導力を修得させるために必要</p>

	<p>となる授業科目を、国際標準、各研究分野オリジナル及び実践の視点から体系的に編成し、専攻内の各研究分野の分担・連携と複数指導教員制の下、重層的な教育を行う。</p> <p>【アドミッションポリシー】 社会科学総合の観点から、国際フードシステムの社会経済問題に関する高度な研究能力と国際性を備えた指導力を持つ人材を体系的・組織的に育成することを教育目標とする。そのために必要となる英語、経済学及び各研究分野の基礎知識を広範に修得し、熱意を持って研究を推進できる能力を有する人物を期待する。</p>
<p>生命機能科学専攻</p>	<p>【ディプロマポリシー】 複雑な生命現象の発現と調節に係る機能素子の作用機構の解明とデザイン、細胞内ネットワークシステムの構成要素(分子)間の相互作用の解明、有用微生物やバイオマスの機能を利用した持続型・低環境負荷型有用物質生産技術の確立、食の機能性・安全性・製造技術など総合科学としての食科学を修得させ、生物機能分子とそのシステム、生物機能の工学的応用、および食科学の発展に携わる人材を組織的に養成する。</p> <p>【カリキュラムポリシー】 複雑な生命現象の発現と調節に係る機能素子の作用機構の解明とデザイン、細胞内ネットワークシステムの構成要素(分子)間の相互作用の解明、有用微生物やバイオマスの機能を利用した持続型・低環境負荷型有用物質生産技術の確立、食の機能性・安全性・製造技術など総合科学としての食科学を修得させるために必要となる授業科目を体系的に編成し、専攻内の各教育コースの分担・連携と複数指導教員制の下、重層的な教育を行う。</p> <p>【アドミッションポリシー】 複雑な生命現象の発現と調節に係る機能素子の作用機構の解明とデザイン、細胞内ネットワークシステムの構成要素(分子)間の相互作用の解明、有用微生物やバイオマスの機能を利用した持続型・低環境負荷型有用物質生産技術の確立、食の機能性・安全性・製造技術など総合科学としての食科学に関する広範な専門知識と総合力、深い洞察力および豊かな創造力を養うことを教育目標とする。生物機能分子とそのシステム、生物機能の工学的応用、および食科学に強い関心を持ち、それらの分野を取り巻く課題に果敢に挑戦しようとする強い意欲をもった人物を期待する。</p>
<p>生物産業創成専攻</p>	<p>【ディプロマポリシー】 遺伝子システム、代謝システムおよびバイオプロセスを研究対象として、分析技術、情報科学的技術を駆使して生物機能のシステム解析を行い、生物生産システムにおける生産効率の飛躍的向上のためのストラテジーをデザインしたり、あるいは、微生物／植物／動物の遺伝子改変を取り入れたシステム解析、機能性食品生産の効率化、機能創出のためのバイオマテリアル構築法など、生体機能物質創製のためのストラテジックアーキテクトをデザインできる、リーダシップを持った博士研究者を養成する。</p> <p>【カリキュラムポリシー】 遺伝子システム、代謝システムおよびバイオプロセスを研究対象として、分析技術、情報科学的技術を駆使して生物機能のシステム解析を行い、生物生産システムにおける生産効率の飛躍的向上のためのストラテジーをデザインしたり、あるいは、微生物／植物／動物の遺伝子改変を取り入れたシステム解析、機能性食品生産の効率化、機能創出のためのバイオマテリアル構築法など、生体機能物質創製のためのストラテジックアーキテクトをデザインするのに必要な授業科目を体系的に編成し、専攻内の各教育コースの分担・連携の下、重層的な教育・研究を行う。</p> <p>【アドミッションポリシー】 遺伝子システム、代謝システムおよびバイオプロセスを研究対象とし</p>

		<p>て、分析技術、情報科学的技術を駆使して生物機能のシステム解析を行い、生物生産システムにおける生産効率の飛躍的向上のためのストラテジーをデザインできる指導的な研究者、あるいは、微生物／植物／動物の遺伝子改変を取り入れたシステム解析、機能性食品生産の効率化、機能創出のためのバイオマテリアル構築法など、生体機能物質創製のためのストラテジックアーキテクトをデザインできる指導的な研究者を養成することを教育目標とする。博士後期課程のみで、しかも産学連携研究を志向した専攻であることから、生命機能科学に関する基礎知識・技術を備え、生物産業界において変化する社会情勢に柔軟に対応でき、国際的な場でリーダーシップを発揮しようとする強い意欲を持った人物を期待する。</p>
統合新領域学府		<p>本学府は、科学的な知の統合と創造を通じて、現代の科学や社会が問いかける複合的かつ根源的な課題の究明に取り組み、その知的成果を社会に還元するとともに、自らそのような知の担い手として活躍する高度な専門人材を組織的に養成する。</p>
	ユーザー感性学専攻	<p>ユーザー感性学専攻は、知の活用主体であるユーザーの視点から、また感性を基盤とする深い人間理解の上に立って、感性価値の創造を推進する高度なプロデューサー型の専門人材を養成する。</p>
	オートモーティブサイエンス専攻	<p>オートモーティブサイエンス専攻は、オートモーティブという視点から自動車と先端技術、自動車と人間や社会、自動車と環境・エネルギーなどの先端的で複合的な課題を知の統合によって解明し、新しいオートモーティブ社会を創造する高度な人材を養成する。</p>
	ライブラリーサイエンス専攻	<p>ライブラリーサイエンス専攻は、ユーザーの視点に立った情報の収集・管理・提供を行い、知の創造と継承活動を支える新たな「場」に求められる高度な専門人材を養成する。</p>